

2022年12月

県内企業の景況意識調査

(第183回)

共同調査

大銀経済経営研究所

大分信用金庫

大分県産業創造機構

* 2022年 10～12月期〈Ⅳ期〉の実績見込み

* 2023年 1～3月期〈Ⅰ期〉の見通し

観光需要の回復を受け、緩やかに改善

今期（2022年10～12月期〈Ⅳ期〉）の業況判断BSIは、前期比18.9ポイント増加の▲0.5となった。業種別のBSIは『建設業』『製造業』『卸・小売業』『サービス業』の4業種で改善し、『金融・不動産業』『運輸業』の2業種で悪化した。

今期は、観光需要の回復を受け、サービス業のほか、製造業や卸小売業のうち食料品関連企業の業況が改善し、全体の業況判断BSIも改善している。

来期（2023年1～3月期〈Ⅰ期〉）の業況判断BSIは、今期比7.9ポイント低下の▲8.4となる見通し。業種別のBSIは、『金融・不動産業』『運輸業』の2業種で改善し、『建設業』『製造業』『卸・小売業』『サービス業』の4業種で悪化する見通しである。

来期の業況判断BSIは、今期比では悪化するものの、サービス業と製造業が引き続きプラス水準の見通しとなっている。

*2022年 10～12月期〈Ⅳ期〉の実績見込み

製造業……………2期連続で改善

卸・小売業……………大幅に改善

建設業……………3期ぶりに改善

サービス業……………3期連続のプラス水準

観光需要の回復を受け、 緩やかに改善

◎業況判断

【今期】(2022年10~12月期 <IV期>)

業況判断BSI : ▲ 0.5 (前期比+18.9㊦)

<内訳>

- ・よくなった 18.3% (前期比+7.3㊦)
- ・悪くなった 18.8% (前期比▲11.6㊦)
- ・変わらない 62.8% (前期比+4.2㊦)

<業種別>

- ・前期比改善 : 4業種 (『建設業』『製造業』『卸・小売業』『サービス業』)
- ・前期比悪化 : 2業種 (『金融・不動産業』『運輸業』)

今期は、観光需要の回復を受け、サービス業のほか、製造業や卸小売業のうち食料品関連企業の業況が改善し、全体の業況判断BSIも改善している。

来期の業況判断BSIは、今期比では悪化するものの、サービス業と製造業が引き続きプラス水準の見通しとなっている。

【来期】(2023年1~3月期 <I期>)

業況判断BSI : ▲ 8.4 (今期比▲7.9㊦)

<内訳>

- ・よくなる 13.6% (今期比▲4.7㊦)
- ・悪くなる 22.0% (今期比+3.2㊦)
- ・変わらない 64.4% (今期比+1.6㊦)

<業種別>

- ・今期比改善 : 2業種 (『金融・不動産業』『運輸業』)
- ・今期比悪化 : 4業種 (『建設業』『製造業』『卸・小売業』『サービス業』)

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI : +11.5 (前期比+20.9㊦)

6業種で改善

収益BSI : ▲3.2 (前期比+20.5㊦)

5業種で改善

【来期】

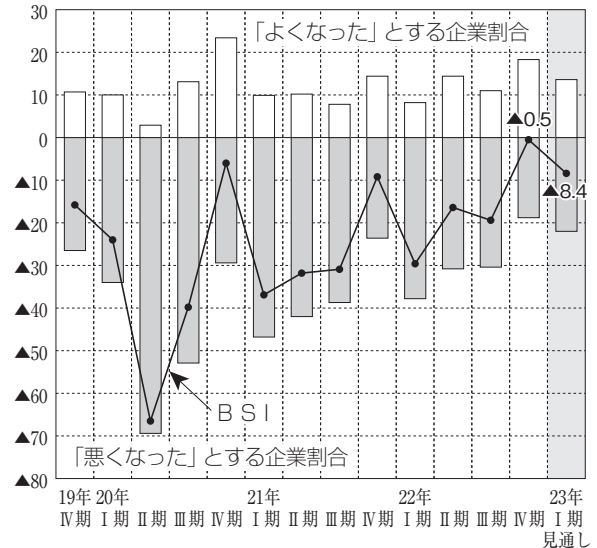
売上高BSI : +0.5 (今期比▲11.0㊦)

5業種で悪化見通し

収益BSI : ▲13.1 (今期比▲9.9㊦)

5業種で悪化見通し

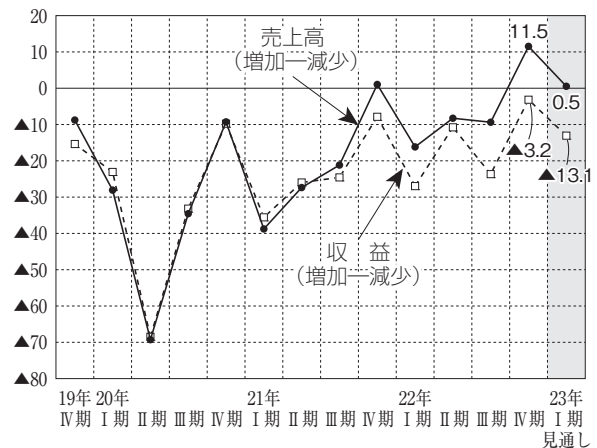
業況判断 (B S I)



業況判断指数内訳 (B S I)

	2022年 II期	2022年 III期	2022年 IV期	2023年 I期見通し
建設業	▲18.5	▲28.0	▲7.7	▲26.9
製造業	▲36.0	▲15.1	5.9	2.9
卸・小売業	▲28.6	▲40.4	▲9.1	▲22.7
金融・不動産業	0.0	▲11.1	▲42.9	▲14.3
運輸業	▲14.3	▲16.6	▲16.7	▲8.3
サービス業	30.6	6.4	18.2	3.0
全産業	▲16.4	▲19.4	▲0.5	▲8.4

売上高と収益 (B S I)



◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

所定外労働時間 B S I : + 4.2 (前期比 + 9.0%)
 4 業種で上昇
 雇用者数の現状 B S I : ▲46.6 (前期比 ▲14.1%)
 6 業種で低下

【来期】

所定外労働時間 B S I : + 1.6 (今期比 ▲ 2.6%)

◎経営上の問題点

- 1 位 : 「原材料仕入価格高騰」(28.9%)
- 2 位 : 「売上不振」(27.3%)
- 3 位 : 「人手不足」(17.6%)
- 4 位 : 「人材不足」(10.2%)
- 5 位 : 「販売受注単価低下」(5.3%)

業種別にみると、「原材料仕入価格高騰」と回答した割合は、『製造業』が42.0%と特に高い。「売上不振」は『金融・保険業』で42.9%と最も高くなっている。

◎設備投資実施割合

【今期】

実施企業の割合 : 36.8% (前期比 ▲ 0.9%)
 3 業種で減少

<投資目的>

- 1 位 : 「補修・更新」(69.6%)
- 2 位 : 「生産能力の拡大・売上増加」(14.5%)
- 3 位 : 「合理化・省力化」(7.2%)

【来期】

実施予定企業の割合 : 38.9% (今期比 + 2.1%)
 2 業種で増加見通し

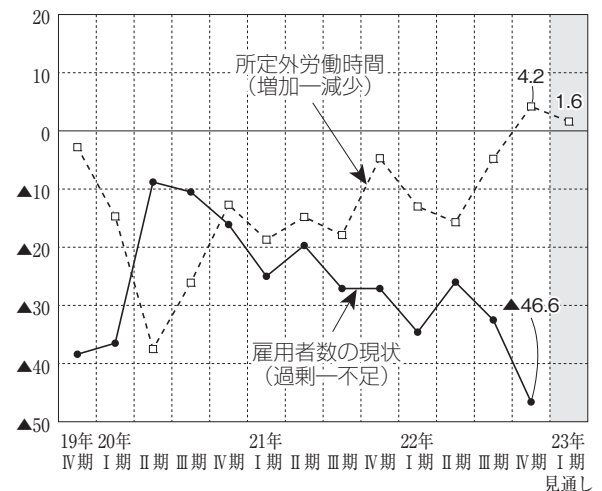
<投資目的>

- 1 位 : 「補修・更新」(72.2%)
- 2 位 : 「合理化・省力化」(11.1%)
- 3 位 : 「生産能力の拡大・売上増加」(8.3%)

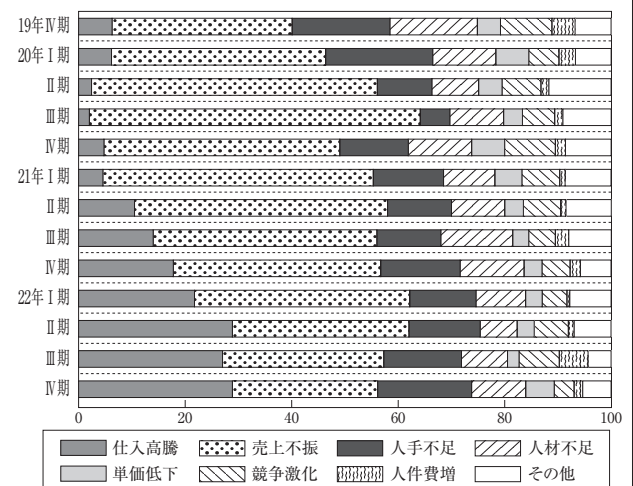
◎「今年の冬季ボーナスの支給予定額」について

今回の調査において、「今年の冬季ボーナスの支給予定額」について尋ねたところ、「前年の冬季と同水準」が41.5%、「前年の冬季より減少する」「わからない」が15.5%、「前年の冬季より増加する」が14.5%、「ボーナスの支給予定はない」が9.8%となった。

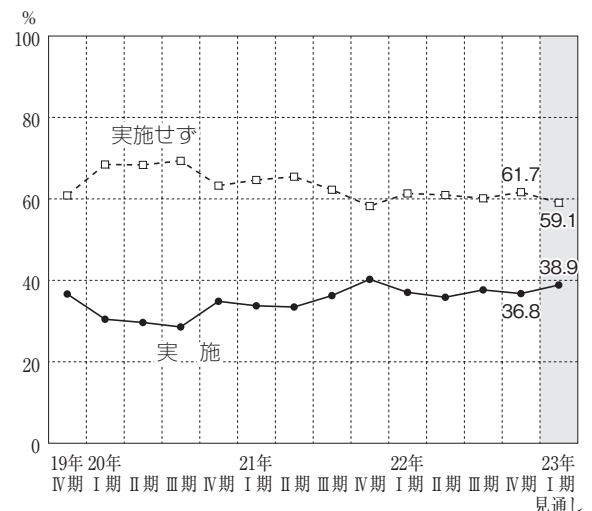
所定外労働時間と雇用者数の現状 (B S I)



経営上の問題点 (%)



設備投資実施割合



2 期連続で改善

◎業況判断

【今期】(2022年10~12月期 <IV期>)

業況判断BSI : + 5.9 (前期比+21.0ポイント)

<内訳>

- ・よくなった 23.5% (前期比+ 5.3ポイント)
- ・悪くなった 17.6% (前期比▲15.7ポイント)
- ・変わらない 58.8% (前期比+10.3ポイント)

<業種別>

- ・前期比改善 : 4業種 (「機械」「食料品」「木材・家具」「その他」)
- ・前期比悪化 : 2業種 (「化学・石油」「印刷・出版」)
- ・前期比不変 : 2業種 (「鉄・非鉄・金属」「窯業・土石」)

全国旅行支援による土産品、外食需要の高まりから「食料品」が大幅に改善し、全体の業況判断BSIは2015年10~12月期以来のプラス水準となった。ただし、経営上の課題として仕入高騰を挙げる企業の割合は、依然として高い。

【来期】(2023年1~3月期 <I期>)

業況判断BSI : + 2.9 (今期比▲ 3.0ポイント)

<内訳>

- ・よくなる 19.1% (今期比▲ 4.4ポイント)
- ・悪くなる 16.2% (今期比▲ 1.4ポイント)
- ・変わらない 64.7% (今期比+ 5.9ポイント)

<業種別>

- ・今期比改善 : 3業種 (「印刷・出版」「窯業・土石」「その他」)
- ・今期比悪化 : 4業種 (「鉄・非鉄・金属」「機械」「食料品」「木材・家具」)
- ・今期比不変 : 1業種 (「化学・石油」)

来期の業況判断BSIは、部品不足の影響などから悪化する見込みである。しかし、「悪くなる」との回答はわずかながら減少し、プラス水準を維持する見通し。

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI : +14.5 (前期比+20.5ポイント)

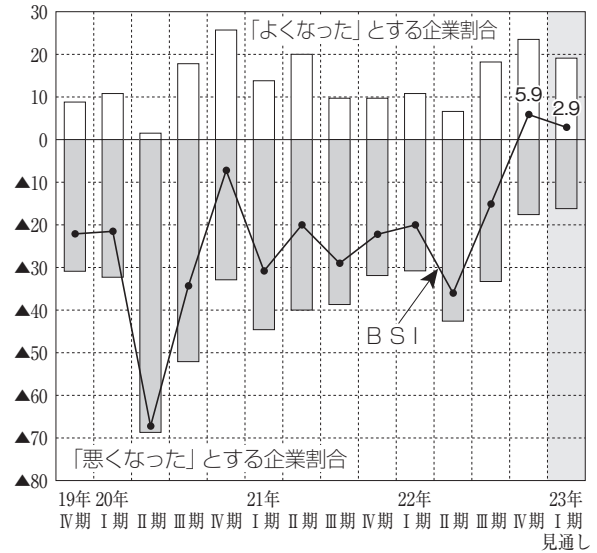
収益BSI : ▲ 4.4 (前期比+24.4ポイント)

【来期】

売上高BSI : +10.2 (今期比▲ 4.3ポイント)

収益BSI : ▲ 7.3 (今期比▲ 2.9ポイント)

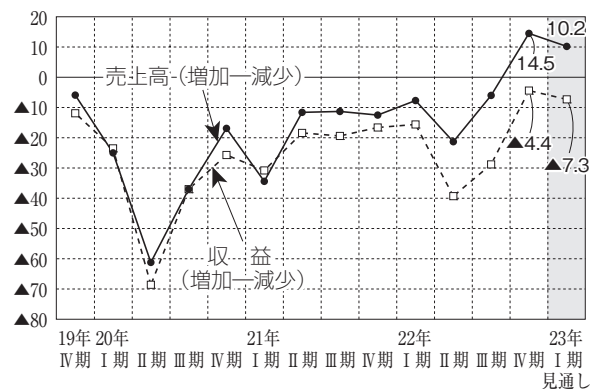
業況判断 (B S I)



業況判断指数内訳 (B S I)

	2022年 II期	2022年 III期	2022年 IV期	2023年 I期見通し
化学・石油	▲33.3	50.0	0.0	0.0
鉄・非鉄・金属	▲44.4	0.0	0.0	▲12.5
機 械	▲50.0	5.5	15.0	0.0
食 料 品	18.2	▲33.3	35.8	28.6
木材・家具	0.0	▲75.0	0.0	▲50.0
印刷・出版	▲80.0	▲50.0	▲80.0	0.0
窯業・土石	▲33.3	▲33.3	▲33.3	0.0
そ の 他	▲66.7	▲12.5	14.3	28.6
製 造 業	▲36.0	▲15.1	5.9	2.9

売上高と収益 (B S I)



大幅に改善

◎業況判断

【今期】(2022年10~12月期〈Ⅳ期〉)

『卸売業』

業況判断BSI: ± 0.0 (前期比+36.4[㊦])

〈内訳〉

- ・よくなった 20.0% (前期比+15.5[㊦])
- ・悪くなった 20.0% (前期比▲20.9[㊦])
- ・変わらない 60.0% (前期比+5.5[㊦])

『小売業』

業況判断BSI: ▲16.7 (前期比+27.3[㊦])

〈内訳〉

- ・よくなった 12.5% (前期比+8.5[㊦])
- ・悪くなった 29.2% (前期比▲18.8[㊦])
- ・変わらない 58.3% (前期比+10.3[㊦])

卸売業、小売業ともに売上高BSI、収益BSIが改善し、業況判断BSIも改善した。観光や外食の需要回復に伴い、食料品を扱う企業の業況が改善している。

【来期】(2023年1~3月期〈Ⅰ期〉)

『卸売業』

業況判断BSI: ▲30.0 (今期比▲30.0[㊦])

『小売業』

業況判断BSI: ▲16.6 (今期比+0.1[㊦])

卸売業では「よくなる」と回答した企業はなく、仕入高騰や製品の供給不足の懸念から悪化した。小売業では今期とほぼ同水準の見通しである。

◎卸売業：売上高と収益

【今期】

売上高BSI: +20.0 (前期比+43.8[㊦])収益BSI: ▲15.0 (前期比+23.1[㊦])

【来期】

売上高BSI: ▲15.8 (今期比▲35.8[㊦])収益BSI: ▲47.4 (今期比▲32.4[㊦])

◎小売業：売上高と収益

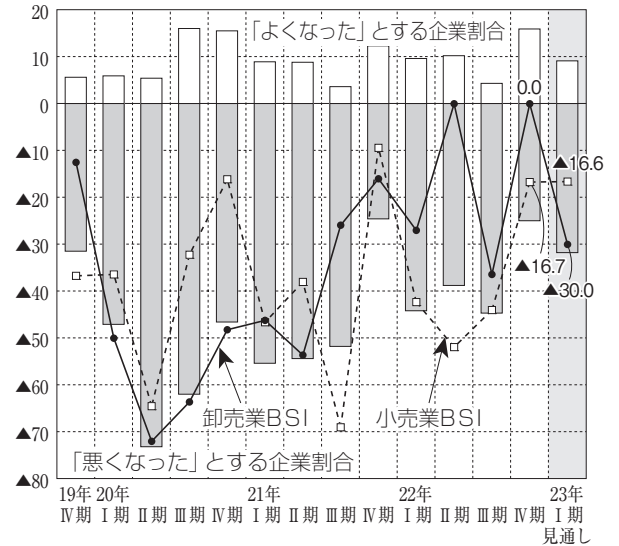
【今期】

売上高BSI: +4.1 (前期比+24.1[㊦])収益BSI: ▲4.2 (前期比+43.8[㊦])

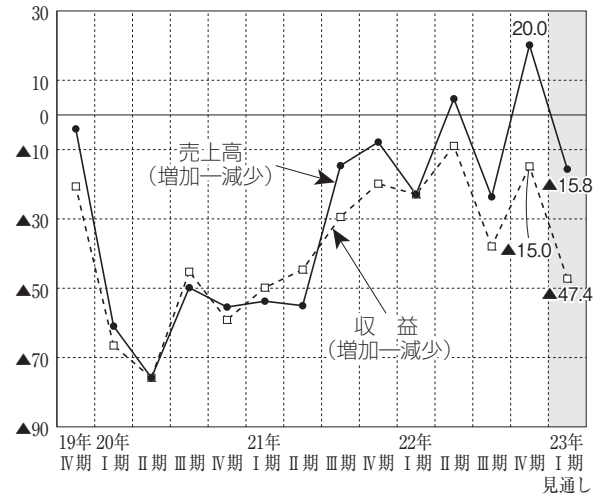
【来期】

売上高BSI: ▲4.2 (今期比▲8.3[㊦])収益BSI: ▲12.5 (今期比▲8.3[㊦])

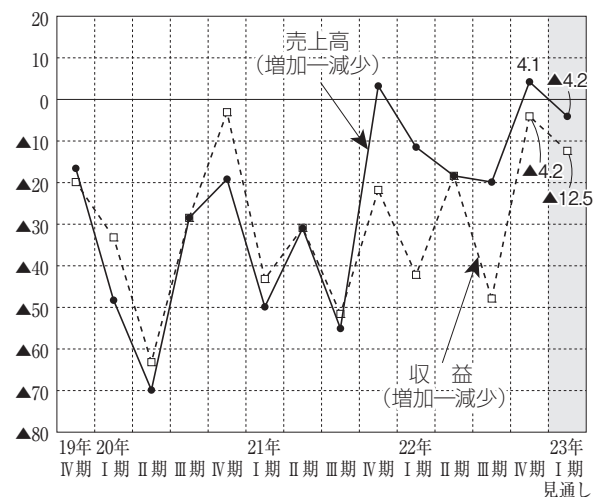
業況判断 (BSI)



【卸売業】売上高と収益 (BSI)



【小売業】売上高と収益 (BSI)



3期ぶりに改善

◎業況判断

【今期】 (2022年10~12月期 <Ⅳ期>)

業況判断BSI : ▲ 7.7 (前期比+ 20.3ポイント)

<内訳>

- ・よくなった 7.7% (前期比+ 7.7ポイント)
- ・悪くなった 15.4% (前期比▲12.6ポイント)
- ・変わらない 76.9% (前期比+ 4.9ポイント)

前期と比べ「悪くなった」との回答が減少し、今期の業況判断BSIは大幅に改善した。経営上の課題としては、仕入高騰を挙げる割合が低下した一方、人手不足を挙げる割合が上昇した。

【来期】 (2023年1~3月期 <Ⅰ期>)

業況判断BSI : ▲26.9 (今期比▲19.2ポイント)

<内訳>

- ・よくなる 7.7% (今期比± 0.0ポイント)
- ・悪くなる 34.6% (今期比+ 19.2ポイント)
- ・変わらない 57.7% (今期比▲19.2ポイント)

来期の業況判断BSIは今期より大幅に悪化する見通しとなっている。一部では、建築コストの高止まりから住宅需要の冷え込みを危惧する声もあった。

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI : ▲ 7.7 (前期比+ 4.3ポイント)

収益BSI : ▲19.2 (前期比+ 4.8ポイント)

【来期】

売上高BSI : ▲15.4 (今期比▲ 7.7ポイント)

収益BSI : ▲23.1 (今期比▲ 3.9ポイント)

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

所定外労働時間BSI : ▲11.5 (前期比+ 8.5ポイント)

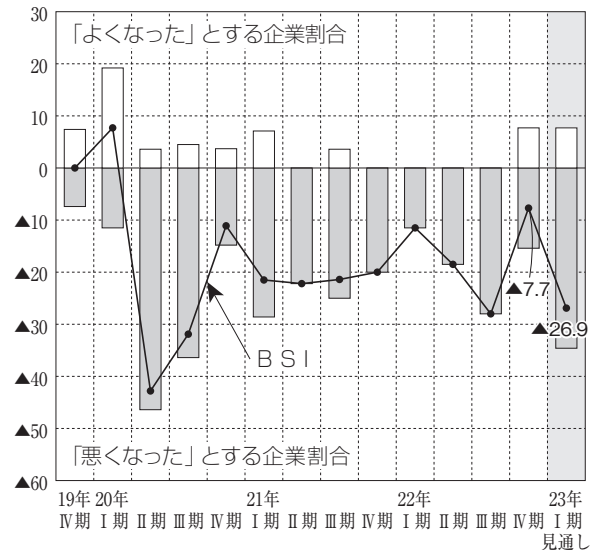
雇用者数の現状BSI : ▲76.9 (前期比▲10.2ポイント)

【来期】

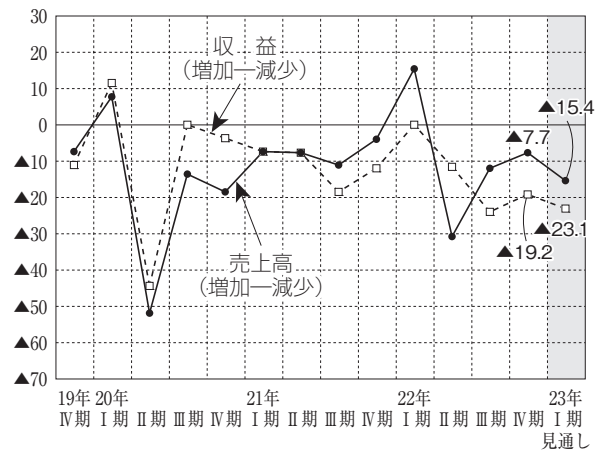
所定外労働時間BSI : ± 0.0 (今期比+ 11.5ポイント)

足元では人手不足感がさらに強まっており、雇用者数の現状BSIは比較可能な1992年Ⅲ期以降で最低となった。

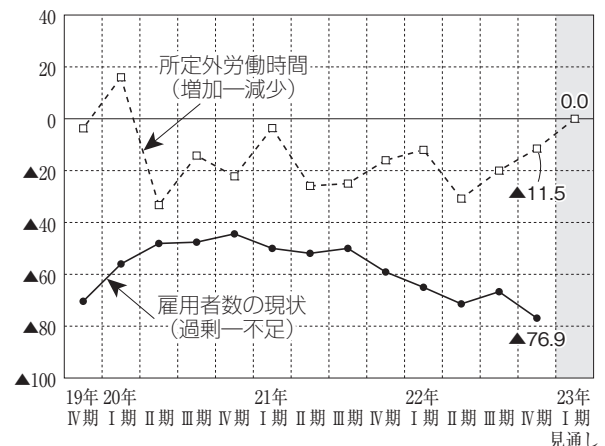
業況判断 (BSI)



売上高と収益 (BSI)



所定外労働時間と雇用者数の現状 (BSI)



3期連続のプラス水準

◎業況判断

【今期】(2022年10~12月期〈Ⅳ期〉)

業況判断BSI: +18.2 (前期比+11.8ポイント)

<内訳>

- ・よくなった 27.3% (前期比+14.4ポイント)
- ・悪くなった 9.1% (前期比+ 2.6ポイント)
- ・変わらない 63.6% (前期比▲17.0ポイント)

全国旅行支援や水際対策の緩和により、観光関連の業況が大幅に改善した。全体では2期ぶりに改善し、3期連続のプラス水準となった。

サービス業のうち観光関連の15社では、「よくなった」と回答した企業は前期比42.4ポイント増の60.0%、「悪くなった」と回答した企業はなかった。

観光関連以外の18社では、「よくなった」と回答した企業がなく、「悪くなった」と回答した企業は16.7%だった。

【来期】(2023年1~3月期〈Ⅰ期〉)

業況判断BSI: + 3.0 (今期比▲15.2ポイント)

<内訳>

- ・よくなる 21.2% (今期比▲ 6.1ポイント)
- ・悪くなる 18.2% (今期比+ 9.1ポイント)
- ・変わらない 60.6% (今期比▲ 3.0ポイント)

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI: +18.1 (前期比+14.9ポイント)

収益BSI: +24.2 (前期比+17.7ポイント)

【来期】

売上高BSI: ± 0.0 (今期比▲18.1ポイント)

収益BSI: ▲ 6.1 (今期比▲30.3ポイント)

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

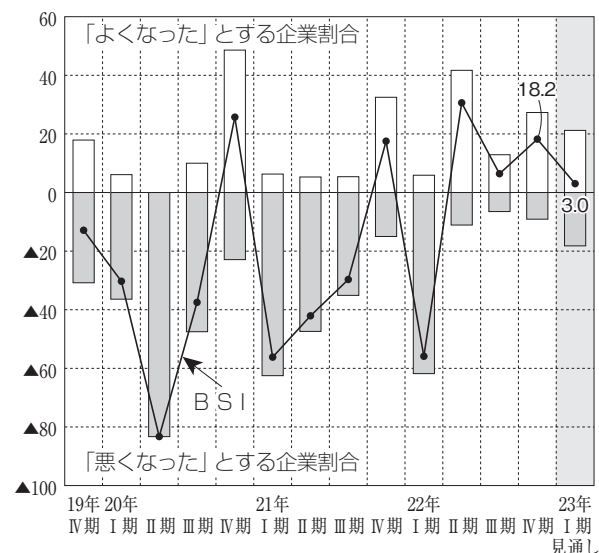
所定外労働時間BSI: + 9.1 (前期比▲ 3.8ポイント)

雇用者数の現状BSI: ▲48.4 (前期比▲16.2ポイント)

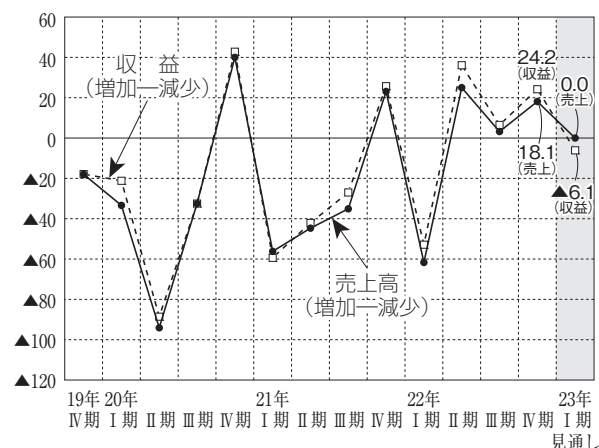
【来期】

所定外労働時間BSI: +12.1 (今期比+ 3.0ポイント)

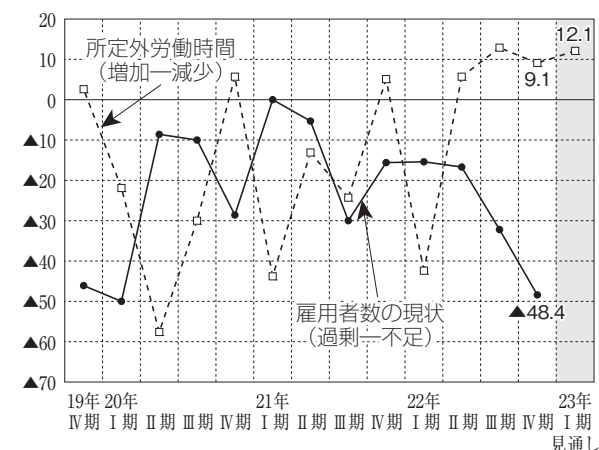
業況判断 (B S I)



売上高と収益 (B S I)



所定外労働時間と雇用者数の現状 (B S I)



BSIとは

BSIとは“Business Survey Index”の略

企業経営者の業況に関する判断や景気見通しを“よくなる・よくなった”、“変わらない”、“悪くなる・悪くなった”という3つの形式で回答を求め、これを数値であらわしたものである。

BSIは次の数式で求められる。

①〔よくなる〕+〔変わらない〕+〔悪くなる〕=100%とする

②〔変わらない〕の回答分を除く

③ $BSI = [よくなる] - [悪くなる]$

BSIが前期を上回れば景気は改善、前期を下回れば悪化という見方をする。

調査の概要

当調査は、大銀経済経営研究所、大分信用金庫、大分県産業創造機構の三者合同によるアンケート調査である。

◎調査時点 2022年11月20日

◎調査の内容

- ・自社の景況の実績と見通し
- ・売上高と収益の実績と見通し
- ・設備投資実施割合
- ・経営上の問題点など

◎調査対象

- ・県内に本社または出先事業所を有する企業429社

◎回答企業数 193社

・回答率 45.0%

・規模別割合

資本金1千万円未満・個人	7.8%
資本金1千万円～1億円未満	60.6%
資本金1億円以上	15.5%
無回答	16.1%